



産業廃棄物処理業ヒヤリハット 企業における具体的取組事例

株式会社 相建


安全衛生情報では会員各社へ伺い、社内における安全衛生の具体的な取組事例をご紹介します。
今回ご協力いただきました会員企業は、株式会社 相建です。

同社は昭和58年有限会社相建興業（建設業 愛知県知事許可取得）を設立、平成13年愛知県・名古屋市の産業廃棄物収集運搬業許可取得、翌年株式会社相建に組織変更。平成18年特別管理産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業中間処理（選別・破碎）許可取得、平成21年産業廃棄物処分業許可（最終処分第1期）取得、平成26年産業廃棄物処分業許可（最終処分第2期）、平成30年に（最終処分第3期）の増設許可取得、現在第4期増設申請中。

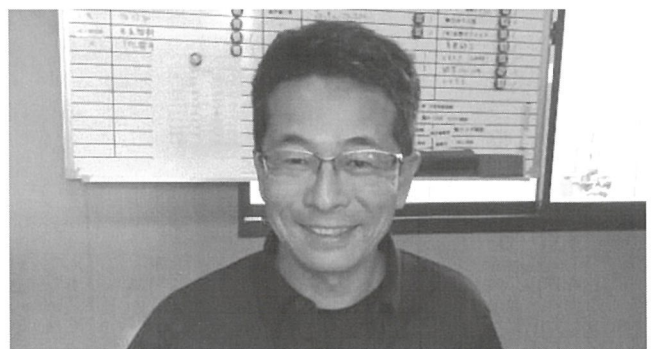
平成25年創業30周年を迎え、平成28年代表取締役社長に荒賀剛志氏が就任。循環型社会形成を担う業界としての責務を果たすため、リサイクルまで含めた廃棄物処理をトータルにサポートし全国からのニーズに対応しています。今号では同社工場長の藤野浩二氏に安全衛生の取り組みについてお話しをお伺いしました。

◆労働災害ゼロを目指して

安全衛生委員会は月に1回（10～18名）開催。さらに業界の災害事例を参考に現場で役立つミーティング（各部署ごと）を月に1回開催し、全社員に繰り返し伝え安全衛生への意識を高める組織的な働きかけを行っています。

 実践例の一つに、重機作業の操作中の方向転換時、右旋回をすると視界に死角ができ災害事故が起こりやすくなるため、大回りであっても左旋回で回るようにする等、業界ならではの秘訣を伺うことができました。

社員に向けての社内講習会は随時開催され、荒賀剛志社長が講師となり産業廃棄物の基礎教育から実務に向けて行われています。特に新入社員の方には労働災害が多い業種でもあるため、安全衛生への意識啓発に重点を置き、尚且つ循環型社会構築を担う業界で従事する誇りを持っていただけるよう、安全な業界であること




藤野工場長

を証明し、業界の社会的な認識の向上に努めたいとのことです。

◆気候変動による酷暑の対策

同社の特徴として廃棄物の収集運搬、中間処理、最終処分まで対応可能であることから、ワンストップサービスの提供を目指しています。しかし現場での、特に夏場の労働環境は厳しいため委員会は工場内・外の各所に熱中症予防の対策を講じています。

 屋外の作業においては直射日光が当たらないよう簡易テントを設営、及び熱中症対策の垂れ幕を設置。霧状の水の気化熱を利用したミスト機（7～9月中旬まで稼働）は、ミストによる冷却効果で作業員の体感温度を調整。

同様に暑い現場における体温調節は着衣内に風を送る空調作業着を全員に配布。

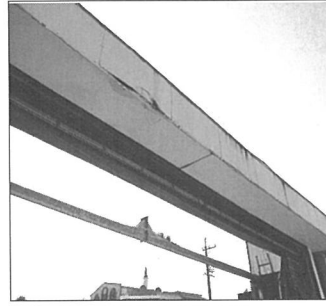
場内数か所の冷蔵庫には経口補水液等、併せて熱中症防止のタブレットが置いてあり、来客者の方にも飲料、タブレットを配布するなど関係者全ての方に熱中症防止の注意喚起を行っています。その成果もありこれまで作業中に熱中症になった作業員は一人もいません。



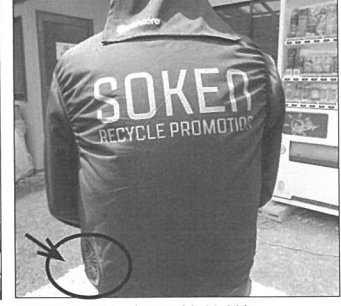
荒賀社長による実務講習会



屋外に設置された熱中症防止垂れ幕



屋外に設置されたミスト機



空調作業着（扇風機装着）



監視カメラモニター



施設屋外に設置された監視カメラ



工場内に設置されたAED



毎週近隣の清掃活動を実施

◆AEDの設置

消防署にて開催される「普通救命講習Ⅰ」にこれまで多数参加しています。他には警備会社が行う救急救命講習会を同社にて開催。

現在コロナ禍における感染拡大防止対策として講習会は開催しておりませんが、毎月のミーティングにおいて救急時の対応については確認を怠っていません。

◆施設内における安全確認

一例として、監視カメラを各所に設置し事務所棟で全体の管理をしています。車両の出入りにおける安全確認、強風時における危険な飛来物の確認、歩行者等をモニターにて確認し、危険時には指示等を行っています。

◆作業車における安全への対応

収集運搬車両には全てドライブレコーダー（2カメラ、音声録音）を備えています。

また、トラックの荷台における作業は高所となるため、作業時に滑らないように滑り止めテープが貼ってあり、シートは足元が見やすいように透けて見えるような特殊なシートを使用するなど、作業者の声を反映した安全な作業環境づくりを実施しています。

ICTの活用では、SNSアプリで回収先での情報、Manifesto、道路の交通情報、緊急連絡等の情報共有を素早く行っています。特に若い社員はSNSの活用の習得が早いいため、苦手な社員へ教え合うなど会話のきっかけともなり、安全衛

生において重要なコミュニケーションツールとしても活躍しています。

◆産廃業界への信頼

施設周辺への清掃活動に力を入れています。近隣に教育施設があることから同社周辺の環境に配慮しています。その姿勢が評価され、近隣の学校の教頭先生から感謝の言葉をいただき、そのご縁からコロナ禍のマスク不足時にマスクを寄付しました。今では同社の施設内の空き地は近隣の方が季節ごとに花を植え憩いの場となっています。

産廃業の施設への懸念を持たれる方もいるため、同社は豊田市にある最終処分場では工場見学を開催し近隣住民の方への理解を深めています。

また、水質検査を毎月行い検査結果をホームページに公開し、企業の見える化を図るなど積極的に安全衛生の取り組みを実施しています。

SDGsの達成に向けて

本年より持続可能な社会の実現に寄与するべくSDGsの取り組みを、2030年のゴール達成に向けて社内で検討を重ねています。

職域的には第一に環境対策、法令遵守、未来を見据えての人材育成、ダイバーシティ、社会的な貢献などがテーマとして挙げられております。

同社は業種にこだわることなくビジネスの多様性をコンセプトに、会社のPRに高速道路沿いに大きなイメージ広告を展開、作業車両や作業服のスタイリッシュ化、それに伴い人材育成によるスマート化を図るなど、若手経営者ならではの経営戦略で業界のイメージの刷新に寄与しております。